

ウズベキスタン

主要データ

国名(英名)	ウズベキスタン共和国 (Republic of Uzbekistan)
面積(km ²)	447,400
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	30.0
人口密度(人/km ²)	67.1
GDP(10億US\$)	48.83
一人当りGDP(US\$)	1,626.38
主要鉱産物：鉱石	銅、金、ウラン、タングステン、
主要鉱産物：地金	銅、亜鉛、金、モリブデン、テルル、セレン、
鉱業管轄官庁	国家地質鉱物資源委員会(内閣管轄)(Goscomgeology)
鉱業関連政府機関	国家鉱量委員会(内閣管轄)、対外経済関係・投資・貿易省、経済省
ロイヤルティ	なし
鉱業法	地下資源法(1994年9月23日制定、No. 2018-XII (1995年1月1日施行)、2019年5月10日最終改正)
外資法	外国投資法(1998年4月30日制定、No.609-I、2017年4月18日最終改正) 外国投資保証・保護法(1998年4月30日制定、No.611-I、2017年9月14日最終改正) 投資活動法(1998年12月24日制定、No.719-I (1999年1月1日施行)、2018年7月26日最終改正)
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境保護法(1992年12月9日制定、No.754-XII (1993年1月29日)、2018年4月18日最終改正)、 廃棄物法(2002年4月5日制定、No.362-II (2002年5月10日)、2018年10月10日最終改正) 環境影響評価制度あり
鉱業公社 (国営鉱業企業)	NGMK (Navoi Mining and Metallurgical Combinat) AGMK (Almalyk Mining and Metallurgical Complex)
2018年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> 2018年2月10日より日本、イスラエル、トルコ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、韓国の国民に対し、ウズベキスタン入国日より30日以内滞在のビザが免除され、39カ国の国民に対し、観光ビザ申請手続きが簡素化された。また、ウズベキスタン入国ビザ発給手続きの簡素化を目的として、2018年7月1日よりビザ電子申請制度が施行された。 2018年9月、ウズベキスタン(Jizzax州Forish地区)における原子力発電所建設に関し、ロシアとの政府間協定を締結。 2019年1月1日よりウズベキスタン国民の出国ビザが廃止される。

1. 鉱業一般概況

ウズベキスタンの主要金属資源は、金、ウラン、モリブテン、タングステン、銅、鉛、亜鉛、銀、セレンであり、金埋蔵量1,800tで世界第12位、年間生産量102tで第10位、ウランの埋蔵量では世界トップ10に入り生産量では第8位である。

ウズベキスタン鉱物埋蔵量国家バランスによると、同国では、97の貴金属鉱床、38の放射性鉱物鉱床、12の非鉄金属鉱床、235の炭化水素鉱床（ガス及び石油鉱床を含む）、814の各種建材鉱床など、1,931の鉱床が発見されている（2017年1月1日現在）。現在、探査は10鉱種以上に行われており、数鉱種だった20年前に比べ探査範囲は拡大傾向にある。近年、探査が開始されたものや強化されているのは、鉄、マンガン、石炭、オイルシェール、一部のレアメタル、レアアース、非在来型の金・ウラン鉱床である。

近年の鉱山開発は、国営企業であるNGMK (Navoi Mining and Metallurgical Combinat) (ウラン、金) 及びAGMK (Almalyk Mining and Metallurgical Complex) (銅、亜鉛、鉛、金)による生産設備の近代化・拡大及び、アジア諸国(日本、中国、韓国)との経済協力によって推進される傾向にある。韓国、中国、ロシア等から調査・採掘分野への投資の動きが活発化しており、ウランやレアメタルを中心に協力拡大の可能性が注目されている。

2. 鉱業政策の主な動き

(1) 地質調査・商業開発に外国投資が誘致される戦略的に重要な固体鉱物の有望エリア及び鉱床の選定基準とリストの承認

2017年5月31日付内閣決定第328号「地質調査・商業開発に外国投資が誘致される戦略的に重要な固体鉱物の有望エリア及び鉱床の選定基準とリストの承認」に基づき、固体鉱物の29鉱床と111の有望エリアが外国投資家にオファーされている。これには、貴金属（金・銀）の12鉱床と31エリア、非鉄金属（銅・鉛・亜鉛）の18エリア、レアメタル・レアアース・ウランの14鉱床と51エリアその他が含まれる。リストは、地質調査による新規地質情報の取得状況を踏まえ、最長5年毎に更新される。

① 有望エリアの選定基準

- ・ 承認済みの鉱物資源基盤発展・再生長期国家プログラムに含まれていないこと
- ・ 所在地：鉱物予測のための探査上の兆候及び地質学的前提条件が存在する地域（ただし、自然保護地域、国境地帯、地質ハザード地帯、都市開発地域を除く）
- ・ 面積：1,500km²以下
- ・ エリアの調査深度：予測鉱化帯の域内
- ・ エリアにおける他の鉱物の鉱徴の存在：制限されない
- ・ 随伴成分（鉱石中）の存在：制限されない

② 鉱床の選定基準

- ・ NGMK 及び AGMK による承認済みの金属生産拡大長期プログラム、採掘事業発展長期計画に含まれていないこと
- ・ 所在地：自然保護地域、国境地帯、地質ハザード地帯、都市開発地域の域外
- ・ 鉱床の深度：経済的妥当性のある範囲内
- ・ 随伴成分（鉱石中）の存在：制限されない

- ・ 環境への影響：飲料水の品質、その他人為的災害等、急激な環境悪化をもたらす影響を与えないこと

(2) 事前事業計画書・事業計画書・入札書類・契約書の審査実施手順の改善に向けた措置

2018年2月20日付大統領決定第PP-3550号「事前事業計画書・事業計画書・入札書類・契約書の審査実施手順の改善に向けた措置」では、貴金属、非鉄金属、レアアース、炭化水素、石炭、ウランは戦略的鉱物であり、これらの採掘及び（または）処理に関する事前事業計画書は、大統領付属国家プロジェクト管理庁のプロジェクト・輸入契約書総合審査センターにおいて総合的審査を受けると定めている。ただし、生産分与契約（PSA）で実施されるプロジェクトは除外される。

(3) 国家地質鉱物資源委員会（Goscomgeology）の活動の抜本的改善に向けた措置

2018年3月1日付大統領決定第PP-3578号「Goscomgeologyの活動の抜本的改善に向けた措置」に基づき、地下資源の利用及び保全の監督機能が、内閣付属国家地下資源地質調査・鉱工業・公共事業安全操業監督局（Sanoatgeokontekhnazorat）から Goscomgeology に移管された。これに伴い、同委員会の中に鉱業地質分野監督局が創設され、以下の主要任務が定められた。

- ・ 法人及び個人が地質調査、鉱物採掘、鉱物資源の処理、鉱山測量を行う際に地下資源利用・保全関連の法的要件を順守しているかを監督する。
- ・ Goscomgeology 付属国家鉱量委員会による鉱物埋蔵量認定時の決定・結論を地下資源利用者が遂行しているかを監督する。
- ・ 鉱物資源採掘・処理における鉱物損失の基準超過の有無を確認し、現行法に基づく処分を行う。

(4) 国家地質鉱物資源委員会（Goscomgeology）に関する規定

2018年4月27日付内閣決定第315号により、Goscomgeologyに関する規定が承認され、その地位、主要任務、機能、権利、責任、活動・報告の組織方法、幹部の責務・責任が定められた。また、当該決定により、委員会の構成（委員会中央機関、18の国営企業、Abdullaev記念地質学地球物理学研究所、Kitab国立地質保全区域、国立地質学博物館、鉱業地質事業監督局、国家地質災害監視局）が定められた。

(5) 国家地質鉱物資源委員会（Goscomgeology）付属国家鉱量委員会に関する規定

2018年5月23日付内閣決定第388号により、Goscomgeology付属国家鉱量委員会に関する規定が承認され、その主要任務、機能、権利、責任、活動の組織的原則が定められた。なお、以前同委員会は内閣付属の組織であった。

(6) 金の手工業的採掘の合法化

ミルジヨエフ大統領が2018年11月26日に署名した大統領決定、「貴金属の手工業的採掘事業実施のための条件整備に向けた措置」によると、ウズベキスタンでは2019年3月1日から、貴金属の手工業的採掘が合法化される。地下資源法にも関連条項である第38-1条「貴金属の手工業的採掘の実施」が追加され、2019年5月10日付ウズベキスタン共和国法律第ZRU-536号により施行された。

Goscomgeologyは、電子商取引サイトE-IJRO AUKSIONIにおけるオンライン・オークション（開始価格

750万UZS(ウズベキスタン・スム)の結果に基づき、手工業的採掘者(個人及び法人)に対し、面積1ha以下の区画(砂金鉱床を含む)の3年間のライセンスを供与する。手工業的採掘事業の実施が許可される区画のリストは、Goscomgeologyの提案に基づき、内閣が毎年承認する。

事業実施の際、地下資源利用者は、坑道の掘削や爆薬の利用なしに専ら鉱石の粉碎と比重選鉱による貴金属回収を行う権利を有する。また手工業的採掘者は、採掘時点から6ヵ月以内に金を契約価格でAGMK、NGMK、宝飾品製造ライセンスを有する法人及び個人事業主に売却しなければならない。

(7) 貴金属等の鉱物の埋蔵量及び資源量、生産量、販売量及び販売による資金の配分に関するデータの公表禁止解除

ウズベキスタン政府は、貴金属等の鉱物における埋蔵量及び資源量に関するデータの公表禁止解除に関する2019年2月1日付決定第77号を採択した。特に、生産量・販売量のデータ、資金配分に関する情報が公表の対象となる。また、ウズベキスタン復興開発基金、貴金属の主要生産者である二つの国営採鉱製錬コンビナートAGMK及びNGMKの財務諸表も開示の対象となる。

(8) 地下資源地質調査の一層の改善と国家プログラム『2020～2021年の鉱物資源基盤発展・再生』実施に向けた措置

2019年7月23日付大統領決定第PP-4401号「地下資源地質調査の一層の改善と国家プログラム『2020～2021年の鉱物資源基盤発展・再生』実施に向けた措置」により、国家プログラム『2020～2021年の鉱物資源基盤発展・再生』が承認されている。このプログラムでは鉱物有望エリアにおける探査の割合を2020年に35%、2021年に40%に拡大し、金・銀の採掘量は2020年に150t、2021年には300tを予定している。プログラム実施には2兆3,000億UZSを充てる。

また大統領決定では、地質調査実施の一層の改善、地下資源の合理的調査と開発、鉱業地質分野の投資魅力向上に向けた2019～2020年のロードマップも承認された。ロードマップには、国際基準に基づく地質調査結果報告書作成、JORC規定に基づく鉱物埋蔵量認定の導入、固体鉱物の有望エリア・鉱床情報を格納する統一電子オンラインプラットフォーム構築が含まれている。

3. 主要鉱産物の生産・消費・輸出・輸入動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表3-1. ウズベキスタンの主要金属鉱石生産量

鉱種	2016年 (t)	2017年 (t)	2018年 (t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク
銅(千t)	100.0	100.0	100.0	0.0	0.5	23
金	100.0	102.0	102.0	0.0	3.1	12
タングステン	300.0	300.0	300.0	0.0	0.3	11
ウラン	2,404.0	2,400.0	2,400.0	0.0	4.4	7
銀	60.0	60.0	60.0	0.0	0.2	20

出典：World Metal Statistics Yearbook 2019

(2) 主要地金生産量

表3-2. ウズベキスタンの主要金属地金生産量

鉱種	2016年 (t)	2017年 (t)	2018年 (t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク
銅(千t)	100.8	100.8	100.8	0.0	0.4	28
亜鉛(千t)	60.0	70.0	74.1	5.9	0.6	23
セレン	30.0	30.0	30.0	0.0	0.8	17
テルル	10.0	10.0	10.0	0.0	1.3	7

出典：World Metal Statistics Yearbook 2019

(3) 主要地金消費量

僅少。

(4) 主要金属輸出量

表3-3. ウズベキスタンの主要金属輸出量

鉱種	2016年 (千t)	2017年 (千t)	2018年 (千t)	対前年増減比 (%)	主な輸出相手国
銅地金	51.5	47.9	67.0	40.0	トルコ、中国

(5) 主要金属輸入量

表3-4. ウズベキスタンの主要金属輸入量

鉱種	2016年 (t)	2017年 (t)	2018年 (t)	対前年増減比 (%)	主な輸入相手国
銅鉱石	5,882.0	30,085.0	9,765.0	-67.5	カザフスタン
亜鉛鉱石	162,499.0	109,187.0	103,841.0	-4.9	タジキスタン、カザフスタン

錫地金	17.0	34.0	29.0	-14.7	ロシア
マンガン					
鉱石	2,415.0	1,519.0	5,874.0	286.7	ジョージア
フェロマンガン	104.0	263.0	402.0	52.9	ロシア、カザフスタン
クロム					
鉱石	-	86.0	61.0	-29.1	ロシア
フェロクロム	377.0	551.0	342.0	-37.9	キルギス、ロシア
フェロチタン	185.0	187.0	112.0	-40.1	ロシア
マグネシウム地金	480.0	1,200.0	82.0	-93.2	ドイツ、トルコ
タングステン鉱石	20.0	22.0	-	-	オランダ
ジルコニウム鉱石	-	-	12.0	100.0	ロシア、ウクライナ

出典：International Trade Centre

4. 鉱山・製錬所状況

表4-1. 鉱山一覧

鉱山 (プロジェクト)名	権益所有企業 (権益：%)	鉱種	生産量	備考
Muruntau	ウズベキスタン 政府(100)	金	1,900千oz (59.1t)	いずれの鉱山も製錬所併設 生産量： 2011年(Muruntau) 2007年(Kokpatas) 2006年(Zarafshan) 2007年(Zarmitan)
Mardzanbulak			-	
Kokpatas			353千oz (11.0t)	
Zarafshan			124千oz (3.9t)	
Zarmitan			321.5千oz (10.0t)	
Almalyk Complex	ウズベキスタン 政府(100) *2018年8月から Almalyk Mining and Metallurgical Complexに対する政府 の持分が外国企業SFI Management Groupに 信託された。	銅 亜鉛 鉛 モリブデン 金	12.0千t 19.1千t - - -	4鉱山企業、2選鉱場、2製錬所(銅、 亜鉛)、3金抽出プラントからなる 国営企業 銅・モリブデン鉱山：Kalmakyr, Sary-Cheku 金鉱山：Kauldy, Chadak, Angren, Kairagach 鉛亜鉛鉱山：Uch-Kulach 多金属鉱山：Khandiza 生産は2010年(銅)・2009年(亜鉛) 実績
Northern Mining District	ウズベキスタン 政府(100)	ウラン	6.1百万lb (2.8t)	主要鉱山：Uchquduq, Kendyktyube
Central Mining District			3District 合計	主要鉱山：Zafarabad, North & South Bukinai, Beshka, Lyavlyakan, Tokhumbet
Southern Mining District				主要鉱山：Nurabad, Sabirsay, Ketmench, Shark, Ulus

Northern Kanimeh			開発中	
Dzhantuar	韓国Kores (50) Goscomgeology (50)	ウラン	開発中	2006年JV設立、共同探査に基本合意

出典：各種資料よりJOGMEC作成

(1) NGMK (Navoi Mining and Metallurgical Combinat)

NGMKはウズベキスタンの主要産金企業であり、同国ウラン生産の独占企業である。同社の金年間生産量は60tを超えている（ウズベキスタンの金総生産量は約100t）。同社の生産施設には、Navoiy (GMZ-1)、Zarafshan (GMZ-2)、Uchquduq (GMZ-3)、Zarmitan (GMZ-4) の4製錬所がある。

ウズベキスタン共和国内閣決定第907号（2018年11月5日採択、2018年11月6日施行）「投資プロジェクト『Muruntau 採鉱場（第五フェーズ）開発第一段階』のFS承認」によると、NGMKは、2018～2027年にMuruntau 採鉱場における金採掘拡大プロジェクト（7億3,390万US\$）を実施する。第一段階では、採鉱場第五フェーズの深度900～950mまでの開発を予定しており、これにより年間採鉱量を30%増の4,700万tに拡大できる。NGMKは2018年初めに採鉱場拡張関連の土木工事を開始した。プロジェクト費用はNGMKの自己資金（4億4,590万US\$）とウズベキスタン復興開発基金の融資（2億8,800万US\$）により賄われる。Muruntauは世界最大級の金鉱床で、NGMKの主要資源基盤である。現在、採鉱場（第四フェーズ）の深度は565mである。

また2018年、NGMKの第5鉱業所ISL式第4鉱山では、新規レアメタル・レアアース生産部門が操業を開始した。

(2) AGMK (Almalyk Mining and Metallurgical Complex)

AGMKは、ウズベキスタンの銅生産独占企業である。

ウズベキスタン大統領は2017年3月1日、大統領決定「Dalnee (Yoshlik I) 鉱床¹ (Toshkent州)を基盤とするAGMKの生産力拡大に向けた方策」に署名した。プロジェクトの目的は、国際的な省エネ・環境基準・要件を満たす最新技術・設備を利用したYoshlik I 鉱床の銅・モリブデン鉱開発と新規採鉱製錬施設の建設により、AGMKの生産力の発展・維持・拡大を図り、同社の原料基盤を強化することである。プロジェクトの第一フェーズ（2017～2021年）では、Yoshlik I 鉱床のTsentralny 採鉱場開発が予定されており、剥土・採掘作業、生産・輸送・エネルギー・インフラ及び周辺インフラの建設、鉱山・輸送機器その他機器の購入を行う。第二フェーズ（2019～2028年）では、選鉱・製錬施設及び関連補助施設（鉱石年間処理能力2,300万t）の建設と剥土・採掘作業の継続が予定されている。第三フェーズでは、鉱石年産能力は2035年には3,500万tに達する見込みである。プロジェクト資金（約17億US\$）は、ウズベキスタン復興開発基金、商業銀行による融資とAGMKの自己資金により賄われる。2019年の投資額は8,170万US\$である。2018～2019年にYoshlik-1銅鉱床の開発も継続し、2019年3月、Yoshlik I 鉱床開発に向け鉄道インフラの建設が開始された。

加えて、ウズベキスタン大統領は2017年8月15日に、大統領決定「AGMKの一層の発展に向けた追加措置」に署名した。同大統領決定に基づき、資源基盤拡大に4億2,000万US\$を追加投資する。資金

¹ 2017年8月にDalnee 鉱床はYoshlik I 鉱床に名称変更された。

は Tashkent 州 Piskent 地区の Yoshlik II (旧名 Kyzata) 鉱床の開発に充てられる。鉱床開発は坑内採掘で 2023 年フル操業化 (年間採鉱量 200 万 t) を予定していたが、迅速化のため、全建設工事を 2021 年までに完了して操業を開始し、2022 年には坑内採掘鉱山をフル操業化する。AGMK は鉱床の立坑 (深度 750m) 開坑に関し、外国企業からの技術提案の選定を行っている。Yoshlik II 鉱床の鉱石埋蔵量は 6,000 万 t 超、マインライフは 30 年以上である。プロジェクト資金は、ウズベキスタン復興開発基金の融資 (3 億 5,000 万 US\$)、Ipoteka 銀行及び Asaka 銀行の融資、AGMK の自己資金により賄われる。

また AGMK は、Kyzyl-Alma 鉱床 (Tashkent 州) における Samarchuk 金鉱山の操業を 2021 年に開始する予定である。プロジェクト費用は 6,500 万 US\$ で、鉱石年産 10 万 t を予定している。



図1. 主要鉱山、探鉱プロジェクト位置図

5. 探鉱状況等

(1) 金埋蔵量の増加予定

「2020～2024 年のウズベキスタン地質部門発展構想」草案によると、Goscomgeology は、金埋蔵量 (カテゴリ C1+C2) を 5 年間で 474t 増 (現行価格見積額 187 億 5,000 万 US\$) とする予定である。金の探鉱投資額は約 2 億 3,000 万 US\$ となる。調査は主に Navoiy 州中央 Kyzyl kum 地区、Samarqand 州、Tashkent 州で行われる。Goscomgeology のデータによると、ウズベキスタンの 2018 年 1 月 1 日時点の金埋蔵量 (C1+C2) は 5,990t、2017 年の金生産量は 89.9t であった。

(2) 地質調査に対する外国投資家誘致

2017年にスタートした「銅・金及びその他金属の地質調査に対する外国投資家誘致計画」の一環として、以下のプロジェクトが実施されている。

① Sautbay タングステン鉱床 (Navoiy 州) 開発 (韓国・Shindong Resources 社)

2013年6月、Goscomgeology と Shindong Resources 社 (韓) は、Navoiy 州 Sautbay タングステン鉱床の探査・開発の合弁企業 Uzbekistan-Korea Tungsten 社の設立に調印した。プロジェクト規模は1億5,000万US\$と予想され、年間1,500tの高濃縮タングステン精鉱を生産可能な採鉱選鉱拠点の建設が予定されている。2018~2019年には、建設中の生産施設における原料基盤拡大の取り組みと、プロジェクトのBFS実施(総額300万US\$)が予定されている。

② 4金鉱山エリアの地質調査 (Toshkent 州、Samarqand 州、Navoiy 州、Qoraqalpog'iston 自治共和国)

Goscomgeology は、2017年、ウズベキスタンの金鉱山エリア10カ所の開発可能性調査に外国企業4社(国際企業 Nordgold 社(本社:モスクワ)、カナダ B2Gold 社、トルコ TUMAD 社、韓国 Shindong Resources 社)を誘致した。Goscomgeology は対象エリアにおける金の推定埋蔵量を明らかにしていないが、調査の投資総額は約800万US\$となる。契約期間は2年で、その後投資家は自身の調査に基づきプロジェクトの次段階(鉱床開発、採掘・処理施設の建設)について決定しなければならない。

③ 銅及び金鉱床の発見が有望な Kazakhtau 及び Kazakhtau-1 エリア (Navoiy 州) における地質調査 (ロシアの Rosgeoperspektiva 社)

Rosgeoperspektiva 社(露・Chelyabinsk 市)は、2018年から Navoiy 州において金及び銅の有望エリアの調査を開始した。同社と Goscomgeology は、2017年12月、銅及び金鉱床の発見が有望な Kazakhtau 及び Kazakhtau-1 エリア (Navoiy 州) における地質調査及び試験採掘の実施協定に調印した。2018年に掘削作業が開始され、2019年3月には500mの深さまで掘削が進み、地表地質調査が完了した。可採埋蔵量が発見された場合、同社は採鉱選鉱施設または処理施設(開発条件による)建設の資金調達に向けたBFSの作成を開始する。

④ Khurob 及び Aidym-Dzhetymtau (Jizzax 州) 及び Aidym-Dzhetymtau (Navoiy 州) 金鉱床の地質調査 (トルコのエネルギー天然資源省鉱物資源調査探査総局 (MTA))

Goscomgeology とトルコのエネルギー天然資源省鉱物資源調査探査総局は、2018年5月、両国大統領の会談に基づき、Khurob 及び Aidym-Dzhetymtau 金鉱床、Sarytau 鉱床域の共同地質調査に関する協定に調印した。2019年2月には、同鉱床におけるタングステンと金の地質調査に関する合意に署名した。この地質調査を実施するために、トルコ側は MTA Tashkent Mining 社を設立した。Goscomgeology によると、2019年に MTA は地質調査のために200万US\$を拠出する。Khurob (Jizzax 州) 及び Aidym-Dzhetymtau (Navoiy 州) 金鉱床の埋蔵量は未評価であるが、Sarytau 鉱床域の予測資源量はタングステン74万t、モリブデン2万4,000t、金75.2tである。3カ所の探査費用の見積額は3年間で500万US\$、探査結果に基づきトルコ側が投資を行う。

⑤ Galabulak 及び Kushtepa (Samarqand 州) 金鉱床の地質調査 (トルコ Tasaypi 社)

Goscomegeology とトルコ Tasaypi 社は、2018 年 10 月 25 日、Samarqand 州における 2 つの金鉱床 (Galabulak、Kushtepa) の共同開発に関する協定に調印した。Tasaypi 社は、両鉱床で 4 ヶ月間、検証ボーリング、技術規定作成用試験を行い、鉱床開発プロジェクトのプレ FS を作成する。2017 年 5 月 31 日付ウズベキスタン内閣決定に示されたデータによると、Galabulak 及び Kushtepa 鉱床の金石英鉱床及び金硫化石英鉱床の金予測資源量は約 5.9t である。

⑥ Yakhton タングステン鉱床開発の FS (国際企業 IFG Capital Partners 社)

Goscomegeology と国際企業 IFG Capital Partners 社は、2018 年 7 月、Samarqand 州 Yakhton タングステン鉱床開発の FS 実施協定に調印した。肯定的な調査結果が出た場合、IFG Capital Partners 社は鉱床を商業開発する。第一フェーズでは、現存埋蔵量確認のためのボーリングと鉱石処理の最適シナリオ決定のための製錬試験を行い、処理施設を設計する予定。同鉱床の三酸化タングステン埋蔵量は 2 万 t 以上である。

Goscomegeology と IFG Capital Partners 社傘下のルクセンブルク企業 IFG Metals & Mining 社は、2018 年 9 月 28 日、ウズベキスタンにおける 7 つのタングステン鉱床の探査・開発に関する独占協定に調印した。同協定により、ウズベキスタンにタングステン・クラスターが創設される。クラスターへの投資額は 25~30 年間で 3 億 US\$ となる。IFG Metals & Mining 社は、Ingichka、Gussai、Sarykul、Kara-Tyube、Lyangar、Koitash 鉱床及び以前取得した Yakhton 鉱床における探査・開発の可能性を分析する。7 鉱床のタングステン年産量は 2024 年までに 5,700t (世界のタングステン総生産量の約 6%) となる。予備地質調査により、7 鉱床には約 13 万 t の酸化タングステンが存在し、類似のプロジェクトに比べ平均品位が高いことが判明している。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

データなし

(2) 日本企業による投資状況等

特になし

7. その他のトピックス

中央アジア唯一のレアメタル研究センターを設立

AGMKはKorea Institute for Rare Metals (KIRAM) の支援により、中央アジア唯一のレアメタル研究の科学技術センターを設立した。同センターは2019年4月、旧Uzbek combine of refractory and heat resistant metals (2016年9月よりAGMK傘下) の敷地内にオープンした。センター設立の基礎となったのは、2017年11月にウズベキスタンと韓国が調印したレアメタル共同事業に関する協定、並びにAGMK・KIRAM間のウズベキスタン韓国レアメタル・合金科学技術センター設立に関する協定である。

(2019年8月31日 モスクワ 秋月悠也)